

解答はすべて(その八)の解答用紙に書きなさい。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

飯村は、広い食堂の窓ぎわにある食卓の前の椅子に坐つて、長く伸びたテーブルに並ぶ食物を a ブツシヨクしながら、皿に移している妻と息子夫婦の姿をながめていた。

嫁の傍らには髪を後ろで編んだ三歳の孫の由紀がいて、嫁が由紀に体をかがめて好みの物をたずね、それを皿にのせている。多種多様の食物の中から適当にえらんでいることが楽しらしい。

妻は、飯村がそのようなウエイキング形式の食事に 特殊な感情をいただいているのを知っている。かれは、一人で旅行した折にホテルの朝食がその形式であるのを知ると、食堂の入口から引返し、外に出て喫茶店に入り、サンドウィッチなどを食べてすます。妻と旅行した時には、そのようなこともできず、妻が運んできた食物を 受動的に口にする。

かれは、自分の手で食物を取りにゆくという行為に強い抵抗感をいただいている。それは終戦前後の食糧 枯渇時代の 記憶が胸に巣食っているからで、戦後半世紀もたっているのに とは思つものの、どうにもならない。

その時期にかれが身にしみて感じたのは、食物を口にしなければ人間は生命を保つことができないという b ゲンゼンとした事実だった。戦争がはじまつて一年ほどまでは、不足しがちではあつたものの、食事の折には食物は眼の前にあつた。しかし、戦争が激化するにつれて食物は次第に周囲から消えはじめ、やがて眼にすることもなくなつて、それを入手するため人々は激しい動きをしめた。筆筒に入れられていた衣類などを手に農家に行つて哀願するように農作物と交換し、果ては野草を摘み、蛙やざりがにを採つて空腹をいやす者もいた。

食べなければ生きてゆけぬということは、人間としての尊厳を根底から突きくずすものに思え、食物が潤沢になつてからも、自らの(注1) 矜持のために自分の方からそれを手にしようとする気にはなれない。眼の前に並べられた食物を、少しおごりたかぶつた気持で口にしたいのだ。

妻と息子夫婦がもどつてきて、食卓の上にハム、ソーセージ、スクランブルエッグ、サラダ等をのせた大小の皿を置いた。

かれは、無言でフォークを手にした。

食堂は十分な空間があつて、食卓も点々と置かれている。大きな 井がをもつ遊園地に隣接したそのホテルは、安い地価の土地に建てられているためか、すべてがゆつたりとしている。食堂も吹き抜けになつていて、ドーム型の天井から程良い陽光が食堂にひろがっている。空気が青ずんでいるように感じられ、皿にのせられた野菜類や果実が新鮮にみえる。

かれが遊園地に同行すると言ひ出した時、妻は呆氣にとられたよつにかれの顔を見つめた。息子夫婦と由紀に妻が加わつて、泊りがけで遊園地ですごす予定が早くから組まれ、ホテルも予約していた。

「なぜ、そんな気になつたのです」

妻は信じられぬ表情をした。

「由紀が喜ぶのを見たいのさ」

かれは、照れ臭さを感じ、妻から視線をそらせた。

かれには息子と娘がいて、娘も半年ほど前に結婚し、近くにある一間つづきのアパートに住んでいる。息子も娘も得がたい(注2) 伴侶に恵まれて、休日にはそれぞれ連れ立つてかれの家にやつてきて食事を共にすることもある。

かれは、なごやかなその環の中に身をゆだねているが、妻が中心に身を置き、世の父親の常として 自分が幾分その環からはずれ気味であることを意識している。それは文筆を(注3) 業とするかれが、d ショウジツ、密室に似た書齋で時をすごしている孤立感が身にしみついていて、家族との間に或る距離を置いているからかも知れない。

息子夫婦や娘夫婦は旅行に出る時、自然のように妻を誘つ。妻もかれに一応声をかけはするが、かれが応ずる気がないのを知っている。かれとしてみれば、自分が加わることによつて浮き立つたかれらの雰囲気<sup>ふんいき</sup>を乱したくない気持がある。そつしたかれが、泊りがけで遊園地に行く妻たちに同行すると言ひ出したことは、妻には思いがけなかつたようだ。

「由紀が……」と答えたが、それはかれの素直な感情であつた。

嫁が女兒を出産したことをきいて、妻と産院に行き、ガラス越しに新生児室のベッドに横たえられた 嬰兒<sup>えいじ</sup>を眼にした。その小さな生き物に、かれは奇妙な感慨<sup>かんがい</sup>をいだいた。息子と娘がそれぞれ出生した時に

受検番号

は感じなかったが、自分の体の細胞を確実に受けついただものが、そこに突然のように出現しているという、戸惑いに似た驚きであった。アミイバーが細胞分裂するように、自分が死を迎えて肉体が消滅しても、細胞が孫の肉体にそのままひきつがれてゆくことが不思議に思えた。嬰兒は顔をしかめ、つこめくように体を動かしている。

嬰兒は由紀と名づけられ、やがて這いはじめ、そのうちにつかまり立ちをして歩くこともできるようになった。飯村は由紀をながめ、時にはその小さく柔かい手にふれることもあった。

子供を喜ばせるさまざまな趣向をこらしているという遊園地で、由紀がどのような反応をしめすが。幼い頃、初めてデパートの屋上にある動く木馬にまたがった時の胸のときめきが思い起され、由紀に過ぎ去った日の自分の姿を見たかった。

息子夫婦が予約したホテルの部屋は家族用の広い部屋で、予備のベッドが一つあいていることから、かれが加わっても、シシヨウはなかった。

前日の日曜日の朝、息子の運転する車に乗って高速道路を進み、川に架った橋をいくつか渡って隣接県にあるホテルにおもむいた。

フロントで宿泊手続をすませた息子の後について、かれは妻たちとホテルの近くにある遊園地に行った。丸い大時計のつめこまれたゴシック様式の正面入口を眼にしたかれは、遊園地が予想通りかなりのキボをもっているのを感じた。石畳の広いアーケードの両側にはレストランや洋風の陶器、衣類、小物などを売る店が並び、それを過ぎるとさまざまな遊戯施設が重なり合うようにつづいていた。家族連れをはじめとした多くの人が歩いていて、かれらは一様に笑いの表情をつかべていた。

若い男が入っているらしい、漫画に出てくる大きなぬいぐるみの犬が、手をふり足をはずませて歩いてきた。嫁がそれを見つめている由紀の手をつかんでゆすった。由紀は、恥しそうに顔を赤らめながらも小さな歯をのぞかせて笑った。由紀は、息子夫婦と妻とともにウエスターランドをめぐるという汽車に乗り、飯村は柵の外に立つてかれらがもどるのを待っていた。園内ではお伽の国の朱色の制服に黒い制帽をかぶった兵士たちのパレードがおこなわれ、楽の音とともに踊子が乗物に乗って過ぎていった。

かれは、息子たちの後からついて歩くだけであった。予想通り由紀は、興奮し、時折り体をはずませていた。

メリーゴーラウンドの柵内に入った妻たちは、それぞれ白馬にまたがった。

やがて音楽の旋律が流れて、円形につらなる馬が上下しながらまわりはじめた。金色の柱につかまった由紀に、前の馬に乗った息子がビデオカメラをむけ、嫁は横の馬に、妻は後ろの馬に乗っている。

その姿をながめていたかれの胸に、不意に二十歳の折にふとんに身を横たえていた自分の姿がよみがえった。肺に巣食った結核菌が腸をもおかして、口にした食物は消化されることなくほとんどそのまま排出されていた。栄養を摂取できなくなった体は極度に痩せ細り、咳と発熱は激しくしばしば意識が薄れた。そのような末期患者であったかれが辛うじて死をまぬがれたのは、半ば実験的におこなわれていた手術を受けたからで、その手術を受けた者も大半が再発し、死亡している。

その折に死を迎えていたら、妻は他の男と結婚していたはずだし、ビデオカメラを手にして息子は存在せず、柱につかまる由紀もこの世に生れ出ていない。

かれは、不思議なものを見るように妻たちを見つめた。笑いながら馬にまたがって体を上下させているかれらは、自分が死をまぬがれたことで、偶然のように家族という形をとっている。

かれは、身じろぎもせずかれらの姿をながめていた。

その夜、由紀は、刺戟が強かつたらしく、しばしばつなされて泣き声をあげた。その声に、ベッドに身を横たえたかれは、死と生とは紙一重なのだ胸の中をつぶやき、眼に涙がにじみ出るのを感じていた。

(吉村 昭「光る干潟」一部改めたところがある)

- (注1) 矜持...自分を信じてもつ誇り。自負。
- (注2) 伴侶...連れや仲間。特に結婚した相手のこと。
- (注3) 業とする...それを職業とすること。

(一) 波線部 a～e のカタカナを漢字に改めなさい。

- a ブツシヨク      b ゲンゼン      c キボ      d シユウジツ      e シシヨウ

受検番号



(十一) この作品の中で主人公は「命のつながり」に思いをはせているが、その「命のつながり」を形のあるもので暗示している。それを本文から探し十字前後で抜き出さない。

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

×そもそも「わかる」というのは、どついつことなのでしょう。私たちはあるものを前にしたとき、いったいどのようなにしてそれを理解しているのでしょうか。

ある話を聞いたり、目の前に示された現象を観察したとき、そのことについてなんとなくでも理解することができれば、私たちはそのことを「わかった」と思います。この「わかった」という感覚は、どのようにして生み出されるものなのでしょうか。

【世の中のすべての事象(事実、現象)は、いくつかの「要素」が結び合う形で、ある「構造」をつくりだしています。しかも、ひとつの「構造」しかない a タンジコンなものは珍しく、多くの場合は、b コトなる「構造」がいくつかまとまる形で成り立っています。このように、c フクスウの「構造」を集めてできあがったものを私は、「全体構造」と呼んでいます。

たとえば、ここに一台のトラックがあつたとします。トラックを構成する最もベースの部分にあたるのは、部品とそれをつなげるねじなどです。この一つひとつの部品が、いまの話に出てきた「要素」になります。そして、これを組み合わせることで成り立っているのが、エンジンやタイヤ、あるいはハンドルやアクセル、ブレーキなどの「構造」です。さらには、この構造同士を組み合わせると、トラックという「全体構造」となり、何らかの働き「機能」を持ちます。】

いまの説明で「ちよつとわかりにくい」と感じた人は、小さなものがいくつが集まつてある大きなものができている姿だけでもなんとなくイメージしてください。これから話を進めるうえで、これがまず頭の中に描いてもらいたい、世の中のすべての事象に共通する基本的なモデルになります。

おそらくほとんどの人は、日々自分の周りで起きている事象に関して「わかっている」という感覚を持っているはず。日常的に目の前で起こっている事実というのは、ほとんどの場合、日々の繰り返しであったり、過去に自分が経験したことだったりします。このためその人の頭の中には、すでにその事象についてのモデル(要素と構造)がインプットされています。ですからモデルどおりの事象を目の前にすると、人は瞬時にそれを「わかった」と感じるすることができます。

このとき無意識のうちにしているのは、それまで自分が学習してきたものとの一致点の確認です。頭の中では、あたかも目の前の事象が何かの形をした映像として映っているのでしょうか。これを知識や過去の経験を取り込んでつくった、事象を理解するための自分なりの頭の中のテンプレート(型紙)のようなものと比較します。そして、一致していることが見つかったときにそのことが「わかる」と感じ、一致していることが見つけれないときに「わからない」と判断しているのではないのでしょうか。

もちろん、自分の頭の中のテンプレートとの一致を見るといっても、理解の度合いによつて差があるように思われます。これについては、三つのパターンがあります。「要素の一致」「構造の一致」「新たなテンプレートの構築」という三つがそれです。

一番目の「要素の一致」は、頭の中にある要素のテンプレートと、目の前の事象の要素とが一致した状態をいいます。

たとえば、ここにリンゴがあつたとします。これが「リンゴである」とわかるのは、その人が過去にリンゴを見たり食べたりした経験を持っていて、「リンゴというのはこういうものだ」という自分なりのテンプレートを持っているからです。このテンプレートは、形や味、あるいは香りや触ったときの感觸など、多岐にわたるものからつくられています。

ただし、ひと目で「リンゴである」と判断するときには、これらをすべて使うことはありません。見た目で判断するときには使えるのは、せいぜい色と形くらいです。自分が持っているリンゴのテンプレートと目の前にあるものを比較して、「赤いもの」「丸いもの」といった色や形に関する要素が一致したときに、「これはリンゴである」と判断しているのです。これが「要素の一致でわかる」ということの中

受検番号
------

身です。

二番目の「構造の一致」は、「要素の一致」とよく似ています。前者とのちがいは、比較しているテンプレートが、「要素」ではなく要素同士の結びついた「構造」である点です。

タンジユンな例として、たとえば公園などでよく見かける児童用の遊具にジャングルジムがあります。金属パイプを格子状に組み立てたものです。ジャングルジムには、金属パイプの組み合わせ方を変えたさまざまな形のものがありますが、ジャングルジムの正しいテンプレートを持っている人は、コトなる形のものを見ても「これはジャングルジムである」とすぐに理解することができます。この場合、形状という要素ではなく、「金属パイプ(という要素)を格子状に組み立てた」構造に注目して見ているのです。この一致を見て理解する方法が「構造の一致でわかる」なのです。

この「要素の一致」と「構造の一致」のふたつに比べると、三つ目の「新たなテンプレートの構築」は質がコトなります。目の前の事象の要素なり構造を見て、自分の頭の中にあるテンプレートとの一致を確認するというプロセス自体は同じです。しかし、そこから先の理解の仕方がまったくちがいます。

もともと目の前の事象と同種の要素なり構造のテンプレートが自分の頭の中になければ、「要素の一致」や「構造の一致」を見るだけでは理解することができません。新しい事象に触れる場合はほとんどそつで、目の前の事象につまぐマツするテンプレートが頭の中にできていないので最初は「わからない」のです。こうした事象を前にしたとき( 1 )人は、目の前の事象を理解しようとしてケントウを始めます。そして、自分がすでに頭の中に持っている要素や構造を使って新しくテンプレートをつくることで理解しようとするのです。これが三つ目の「新たなテンプレートの構築」です。

たとえば、シチューを生まれてはじめて見る人がいたとします。その人は、シチューを前にして、それがどんなものかよくわからずに困惑することでしょう。ただし、その人はシチューの存在ははじめてでも、「みそ汁」や「スープ」などは飲んだことがあるとしましょう。すると、みそ汁やスープのテンプレートと完全一致はしないものの、シチューといつものみそ汁やスープと同じように、「液体状のものの中に素材が具として入っているんだな」と( 2 )の類似点を手がかりにして、新しいテンプレートをつくっていくことになります。これが「新たなテンプレートの構築でわかる」ということです。

あらたなテンプレートは、シチューの( 2 )はみそ汁やスープと似ているけれど、「みそ汁とは具の素材や味付けがまったくちがう」とか「スープとは質感がちがう」という具合に、いろいろとケントウを加えながら進めていきます。

もちろん、この作業はシチューに詳しい人から教わることもできますが、それよりも実際に自分でシチューを食べる経験をしたほうが断然つまぐいきます。

たとえば、シユン万次郎(中浜万次郎)という歴史上の人物がいます。万次郎は、バクマツ期に高知の漁師の家に生まれましたが、一四歳のときに出漁中に漂流し、アメリカの捕鯨船に救助され、それが縁で日本人として初めてアメリカ本土を踏んだ人です。その後日本に帰国してバクマツ明治期を通じ日米の架け橋となり活躍しましたが、その彼がはじめてスープやシチューを飲んだとき、どのようにスープやシチューのことを理解したのでしょうか。

当時の庶民は当然スープやシチューについての知識はまったくありませんでした。彼はタンジユンに「はじめて飲めけれどおいしいものだ」と思つてそのままスープやシチューについてのテンプレートを新しく自分の頭の中につくつたのかもしれませんが。ただ彼は非常に優秀だったと伝えられていますので、スープやシチューの要素と構造をきちんと分析して、自分の知っているみそ汁と同種の要素と構造だと気づき、「具入りの汁」という一括りの概念として認識したかもしれません。もしくはご飯とみそ汁、パンとスープというそれぞれの要素と構造の類似に気づき「液体状の副食」という概念として認識したのかもしれません。

たとえばいまでこそ多くの人が当たり前のように利用しているインターネットについてはどうでしょうか? 情報伝達手段として九〇年代の半ばから徐々に一般の人に広がつたこの新しい道具については、おそらく多くの人が「テレビ」「本」「郵便」「電話」といった自分たちがそれまでにわかつていた要素や構造を通じて、インターネットへの理解を深めていったはずで、その理解を深める過程が新たなテンプレートづくりの過程であり、「わかる」過程そのものなのです。

(畑村洋太郎『「わかる」技術』一部改めたところがある)

受検番号

(一) 波線部 a～e のカタカナを漢字に改めなさい。

a タンジコン      b コト(なる)      c フクスウ      d ケントウ      e バクマツ

(二) 【      】で囲まれた部分から読みとれることとして適切なものを、次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

- ア 「要素」をばらばらにすると「構造」になり、「全体構造」をばらばらにすると「構造」になる。
- イ たくさんの「要素」から「構造」ができあがるが、その中でも大きなものが「全体構造」である。
- ウ 「構造」は「全体構造」から成り立っており、「要素」は「構造」から成り立っている。
- エ 「要素」が集まってできたものが「構造」であり、「構造」が集まると「全体構造」になる。
- オ 一つのものを見た場合、「要素」「構造」「全体構造」の中では、「全体構造」の数が一番多い。

(三) 傍線部 「これ」が指している内容を、本文中から過不足なく抜き出しなさい。

(四) 傍線部 「おそらくほとんどの人は、日々自分の周りで起きている事象に関して「わかっている」という感覚を持っているはずです」とあるが、それはなぜか。その説明としてもっとも適切なものを、次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

- ア 日々の生活の中で見たり触ったりするものはすべて、「要素」「構造」「全体構造」という、きまった単位からできているので、実はもの同士には大きな差はないから。
- イ 毎日の生活の中で、身のまわりに現れるものについて「わかっている」という感覚を持たずに生活している人は、少数にとどまっていると考えられるから。
- ウ ふだんの生活の範囲はきまっているので、身のまわりに起こることの大部分はすでに知っていることであるため、頭の中にテンプレートができてから。
- エ 人間は変化の多い生活をしているようではあるが、実は生活のパターンの数はそれほど多くなく、それほど長く生きなくても、すべてのパターンを知ってしまうから。
- オ 人間は、目の前に起こったことを何かの形をした映像として映し出す性質を持っており、身のまわりの事象とその映像が一致すると安心感を持つことができるから。

(五) 傍線部 「これについては、三つのパターンがあります。「要素の一致」「構造の一致」「新たなテンプレートの構築」という三つがそれです」とあるが、次のア～オはそれぞれ、三つのパターンのどれにもっとも関係が深いか。

「要素の一致」ならばA、「構造の一致」ならばB、「新たなテンプレートの構築」ならばCで答えなさい。

- ア ハヤシライスを食べたことがなかったため、カレーライスと同じところや違つところを考えながら食べた。
- イ 色合いや質感など、あまりによく似ていたため、サンプルのトーストを本物と間違えてしまった。
- ウ 外国人のAさんははじめてふすまを見たとき戸惑つたが、自国の建築物の記憶とくらべて、ドアの一種だろうと判断した。
- エ たくさんの子供たちの中から、Bさんの息子を探し出すクイズをやつたが、あんまり目や鼻の形がそっくりだったので、すぐに分かつてしまった。
- オ 中身が見えなかったとしても、お店の名前が入つたカップに、冷たい液体が入っているとすれば、ジュースだろうということはずぐに分かる。

(六) 傍線部 「ただし、ひと目見て「リングである」と判断するときには、これらをすべて使うことはありません」とあるが、これはどついつのことか。もっとも適切なものを次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

- ア 目の前の事象を理解するとき、テンプレートの中のすべてのことがらと一致しているかどうかを確かめているわけではないということ。
- イ 身のまわりの事象を理解するときのテンプレートは、必ずしも今まで見たものすべてをもとにしているわけではないということ。
- ウ 目の前にあるものと、頭の中にあるテンプレートを比べる場合、テンプレートから参考にできるのは、五感のうちどれか一つに限られるということ。
- エ 目の前にあるものが何であるかを判断する場合に、常に頭の中のすべてのテンプレートを調べているわけではないということ。

受検番号

オ 様々なものごとを判断するときにはテンプレートはいつも使われるが、そのテンプレートによる判断が常に正しいとは限らないということ。

(七)( 1 )を補つ語句として最も適切なものを、次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

- ア そのことに興味を持つたり、理解できないことに不満を感じた
- イ 自分の持っているテンプレートの数の多さに自信を持っている
- ウ どうにか事象にマッチするテンプレートを見つけたことができた
- エ 「わからない」という状態に不服を抱かずに、前向きに考えられる
- オ 生まれつき新しいテンプレートをつくる能力を持った特別な

(八)( 2 )を補つものにもっとも適切な漢字二字の語句を、本文中から抜き出しなさい。

(九) 傍線部 「もちろん、この作業はシチューに詳しい人から教わることもできますが、それよりも実際に自分でシチューを食べる経験をしたほうが断然うまくいきます」とあるが、こうした状況を表現するのになさわしいことわざ一つを、すべてひらがなで書きなさい。

(十) 傍線部 「ジョン万次郎」とあるが、本文のジョン万次郎の例から筆者が言おうとしていることとして最も適切なものを、次のア～オの中から選び記号で答えなさい。

- ア ジョン万次郎は非常に優秀だったと伝えられているので、「新しいテンプレートの構築」以外の方法でシチューを理解したに違いない。
- イ ジョン万次郎は、「要素の一致」「構造の一致」「新しいテンプレートの構築」のどれでもない、新しい理解の仕方を持っていた。
- ウ ジョン万次郎がシチューに代表されるような外国の文化を理解した結果、後年日米の架け橋になるという成果を出すことができた。
- エ ジョン万次郎の生きた時代には、新しいテンプレートがたくさん作られたが、現代ではそうした機会は少なくなってしまう。
- オ ジョン万次郎のシチューの理解の仕方は、「要素の一致」「構造の一致」「新しいテンプレートの構築」のどの可能性であつたとも考えられる。

(十一) 傍線部 「「テレビ」「本」「郵便」「電話」といった自分たちがそれまでにわかっていた要素や構造を通じて、インターネットへの理解を深め(る)」とあるが、これはどうすることを言っているのか。次の条件を守って、五十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

【条件】

「テレビ」「本」「郵便」「電話」という言葉を用いてはならない。

「テンプレート」という言葉を必ず用いる。

(十二) 二重傍線部×「そもそも「わかる」というのは、どういふことなのでしょうが」とあるが、これを説明する次の文章の空欄を、それぞれ指定された形式で補いなさい。

人間は、自分の周りで起きている事象と【ア 十五字で抜き出し】を比べて、【イ 漢字二字で抜き出し】や【ウ 漢字二字で抜き出し】に一致しているところがあれば、「わかった」と感じ、なければ「わからない」と感じる。このとき「わからない」と感じた場合、人間は【エ 三十五字から四十字で抜き出し、最初と最後の五字で解答】という方法で、わかること試みるのである。

(一)	a		b		c		d		e			
(二)		漢字		意味		漢字		意味		漢字		意味
(三)						(四)		(五)		(六)		
(七)												
(八)												
(九)												
(十)												
(十一)												

(一)	a		b	なる	c		d		e	
(二)		(三)								
(四)		(五)	ア	イ	ウ	エ	オ	(六)		
(七)		(八)		(九)						
(十)										
(十一)										
(十二)	ア									
	イ		ウ		エ		ス			

得点	取検査号